



京都薬科大学
KPU NEWS 編集委員会



2006年度の入学式を迎えるにあたって

学長 西野 武志

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本日、激しい受験戦争を終えられ、見事に難関を突破して京都薬科大学に入学を果たされた皆さんならびに大学院博士前期課程及び後期課程の皆さんに、教職員一同心よりお祝いを申しあげますと共に、終始皆さんを励まし、支えてこられたご両親、ご家族の方々に衷心よりお慶びを申し上げます。今年は薬学にとって大変革の年、6年制がスタートする最初の年に入学を果たされた皆さんには、忘れることが出来ない、思い出深い年度になるものと確信致しております。

ところで、“japan”を辞書でしらべると「漆」と記載されています。これは日本の伝統工芸である漆塗り、漆芸が昔から世界的に注目されてきたことに由来しており、最近でも約9千年前の縄文時代のものと特定された漆器が、泥水に浸りながらも朽ち果てることなく発見されたことから、耐腐食性能が現在の化学塗料よりも遥かに優れたものであることが実証されています。この漆が乾燥するのは、漆汁に含まれる酵素の酸化作用によることが、1883年に吉

田彦六郎博士（1899年に京都帝国大学教授）により報告されており、彼の死後、彼こそが世界で最初の酸化酵素の発見者であることが、ノーベル化学賞受賞者のサムナー（米国）により紹介されています。吉田博士は常々「書物上の学問は死せる骸（むくろ）で、実際に触れてみなければならない」と言っていたそうで、これは論語にある「学びて思わざれば則（すなわ）ち罔（くら）し、思いて学ばざれば則ち殆（あやう）し」に通ずるところがあります。

また、日本のロケット開発の父である故糸川英夫博士は「日本人はlearnはするが、studyはしない」と述べています。すなわち、“learn”は講義などを通じて先生から先人の知識を学ぶことで、“study”は自分の頭で考えて、実践・実行することと解釈されます。大学の教育ではこの“study”が最も重要で、カリキュラムの中の早期体験学習、基礎演習、特別実習や実務実習などからも再認識して頂けるものと思いますが、日々の講義においても“study”を心掛けて頂くことを切望致しております。

CONTENTS

2006年度の入学式を迎えるにあたって	学長 西野武志	……1
6年制1期生としての心構え	副学長 佐藤隆司	……2
山内千代の夫・一豊	副学長 太田俊作	……2～3
楽しい学生生活のキーワードは友人+好奇心	学生部長 井上武久	……3
新入生への挨拶	進路支援部長 谷口隆之	……3
昇任のご挨拶	北出助教授 長澤助教授	……4
卒業生からのメッセージ		……5

特集 先輩からのメッセージ	6～10
オーロラの下で	
薬物治療学教室 D1 栗飯原永太郎	……11～12
京都府病院薬剤師会連携ワークショップ開催	……13
受賞	……13～14
クラブだより	……14～15
Library News	……16～17
お知らせ	……18～20
京薬会だより	……20



6年制1期生としての 心構え

副学長（教務部長）
教授 佐藤 隆司

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんはいよいよ始まった薬学部6年制の第1期生で何かと注目されると思いますが、皆さんの歩みは今後の基準となり、教育の改善にもつながります。我々教員も6年制は未知の領域ですが、皆さんとともに本学の薬学部6年制の基盤を築き、6年制教育の完成を目指して共に歩みたいと考えております。

薬学部が4年制から6年制に延長されて教育に余裕ができたような感がありますが、教養科目と薬学専門科目のほとんどの単位は4年次終了時までには修得しておかなければなりません。これは5年次に5ヵ月の学外での病院・薬局実務実習があり、この実習を行うために、薬の基礎的知識を十分に修得しておく必要があるからです。講義から得る薬学の知識は最初の4年間で修得することを、まだ先の話だからと思わず、しっかり心に留めておいて下さい。

本学が特に力を入れる教育の1つは、課題をとおして自ら問題を掘り起こし、自ら学習し、自ら解決する自己開発型学習や自己解決能力の育成です。このため、1年次では小グループでの討論を中心とした「基礎演習」を、また3年次からは2年半にわたって学ぶ「卒業実習」をカリキュラムに組み込みました。これにより、将来皆さんが直面するさまざまな問題に対処できる知識や能力が身につくと期待しております。

6年制教育では、皆さんに対する教育方法が抜本的に改革されます。従来の教育は、必要な内容を教員がやや一方的に教える教員主体の教育でしたが、6年制では、教員が各科目の内容について皆さんがどこまで到達すべきかを到達目標としてシラバスに明記し、その目標を達成する教育を行うように変わります。これは講義を受ける皆さんが目標に到達するように講義をするということで、我々教員はこれに添った教育を行なうよう努力します。

皆さんが卒業する6年後には薬剤師の業務にも変化があり、現在の調剤主体の業務から、特定領域の医療に従事する業務が主体となると考えられています。そのためにはより高度な専門的知識が要求されるようになります。また、薬の開発や薬物療法の分野においても目覚ましい進展が予想されます。これまでの4年制の制度ではそれらに対する教育を行う余裕がありませんでしたが、6年制ではそのためのカリキュラムを組み、十分な教育を行なっていきますし、皆さんもそれに応えていただきたいと思います。6年後には医療専門人としての幅広い学識を持

ち、チーム医療の一員として活躍できる薬剤師や薬学研究者を育て送り出すという責を果たすよう努力します。



山内千代の夫・一豊

副学長（研究科長）
教授 太田 俊作

今年は、NHK大河ドラマの影響で、山内一豊の妻・千代女が話題となっています。千代は封建制度下の日本型賢妻の理想的模範生として古くから一般に認知されてきました。今回は、ICOCAとauのI T コマーシャルで一躍有名になった人気女優で、主演の仲間由紀恵さんが、現代的な女性の感覚で演じていますので、内容が分かりやすいことに加えて、達者な助演俳優陣にも支えられてブームがますます加熱しているようです。千代は亡国の武将の血を引く夫・一豊が一国一城の主になって山内家を再興することを夫婦の夢とし、その夢の実現に向かってエネルギーを傾注します。ただ闇雲にエネルギーを使うのではなくて、効果的にエネルギーを使うためには、情報の収集が昔も今も大切であることを千代が教えて呉れるという意味でも、このI T 女優は適役です。余談ながら、一豊、千代も本学のすぐ北を通る街道を400年前には何度も、何度も往来したことでしょう。

一方、このように出来すぎた妻を持つ夫・一豊から見た千代は一体どうであったのかという問題は、筆者の長年の思考課題で、未だに結論が出せていません。一豊が最終的に土佐一国二十四万石の主になったことから類推して、千代は一豊にとって掛け替えのない「気の合う妻」であったのでしょうか。期待と要求が多過ぎる妻や母は、恐妻や教育ママとなるのでしょうか、夫や子供が寛容であればそれでも上手く行くし、反発すれば人間関係や家庭の不和や崩壊が起こるかもしれません。「分別をわきまえた熱心さ＝積極性」と「寛容」は、妻と夫、親と子、上司と部下、先生と学生、経営者と社員、実行部隊とサポーターなどの間に良き人間関係を構築し、これらの人々が安寧で平和な日々を送る上で普遍的に必要な観念であって、「満ちたるを知る＝感謝」とともに多くの宗教の基本的な教えでもあります。しかし、凡人にとっては一般にこのような教えは「言うは易し、行なうは難し」でしょう。一豊は、浪々の苦労を青少年時代に経験したことで、寛容のマインドが自然と身に備わったと思われます。千代の分別をわきまえた積極性と一豊の寛容、そして強運がこの夫婦の夢を達成させた成功の秘訣ではなかったかと想像しています。

さて、現代は結婚年齢や就職年齢を考えると、新入生諸君が大きな夢を現実のものにするのに山内流では少々スタートが遅すぎるので、積極性と寛容のマインドを学生時代に自ら養わなければならない様ですが、一豊・千代に劣らずIT技術、教養と専門知識・技術、そして人格も、在学中にピカピカに磨いてほしいと思います。新入生諸君の夢に祝福を！



楽しい学生生活の キーワードは友人＋好奇心

学生部長
教授 井上 武久

新入生の皆様御入学おめでとう御座います。今年から薬学部教育6年制がスタートします。この年限延長は、新しい時代の中で薬剤師の役割がますます重要度を増すと云うことを意味します。皆さんはその初陣を飾るわけですが、社会の期待に沿うべく資質の高い薬剤師を目指し精進して頂きたいと思います。

皆さんにとってこれからの6年間は、一人ひとりが画一から多様化、個性化へと変化変身するための大切な青春時代です。ですから学生時代に勉学以外に何を学び、何を経験するかがその後の人生に大変重要な影響を及ぼすでしょう。そこで皆さんの生活全般をサポートし、応援するのが“学生部”の仕事です。学割の発行、奨学金の紹介、クラブや学園祭などの活動支援は勿論、学生生活上のいろいろな相談に応じています。さらに“こころの健康相談日”を設け、皆さんが心身とも健康で有意義な学生生活を過ごせるよう努めています。“学生部”は皆さんの充実した学生生活のために助力を惜しみません。気軽に利用して頂きたいと思います。

しかし、楽しく、充実した学生生活を送る為には自らの工夫や努力も必要ですね。その為の助言を二つ。まず、本当に信頼できる友人を作ってください。悩み事の相談、友と語る将来の夢など、真の友人は一生最大の財産になると思います。一人で見る夢は夢でしかないが、友と見る夢は現実である、という誰か？の言葉もあります。又、友人との付き合いのなかで、協調性や他人に対する気配り、思いやりといった人格も涵養されるでしょう。次に何事にも「好奇心」（未知の事柄に対する興味）を持ってください。テストに合格するだけが目的の勉強は苦痛ですね。でも好奇心から生じる自発的な勉強は、「知る」から「分かる」（理解する）という勉学を可能にし、楽しい「未知との遭遇」を約束してくれます。何事にも好奇心さえ持てば、楽しみや新たな発見が無限にあるでしょう。

では、友人＋好奇心＝楽しい学生生活、と云う公式？を頭に置いて学生生活をスタートしましょう。卒業のとき、すばらしい学生生活だったと振り返れることを期待しています。



新入生への挨拶

進路支援部長
教授 谷口 隆之

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは薬学部6年制のスタートの年の最初の薬学生となりました。希望を胸いっぱいされていることと思います。わたしは進路支援部長として、皆さんに約5年後の就職活動に向けてのお話をしたいと思います。

皆さんの就職先は広い意味での医療関係がほとんどだと思いますので、当然のことながらまず薬剤師国家試験に合格する学力を6年間で付け、薬剤師免許を取得しなければなりません。さらに多くの求人先が京都薬科大学学生に求める人材は、①いずれリーダーになりうる総合力のある人物、②確実に与えられた仕事をこなせる人物で、人並み以上の人格と能力を持っている人物、ということであります。そのために徹底的な自己分析が大切になります。たとえば自己の性格の長所と短所、価値観、さまざまな経験、身につけた能力などが約5年後の就職活動に必要となります。1年次生の今から自己を十分に高める努力をしていただきたいと思います。

厚生労働省の試算では、薬剤師の需要は早ければ2006年に頭打ちとなり、以後「供給過剰」の状態が続くとされています。薬学部6年制卒業見込み者の求人については、企業等から具体的な予想の提示はまだありませんが、おそらく現在の求人状況と大きく変わらないものと予想しております。ただ薬科大学や薬学部の新設／増設にともなう薬学部卒業見込み者のかなりの増加により、就職が厳しさを増すことだけは想像できます。無為に日々を過ごすことは出来ません。勉学に、クラブ活動に、趣味に、と幅広く自己を磨いて、求められる京薬生をめざして下さい。

学生の皆さんは、自分の適性を見極め、さらに明確な意志を持って将来を熟考し、進路を決定して下さい。進路支援部では、多くの資料、多くの卒業生の声などを揃え、またインターンシップ、進路ガイダンス、SPI適性模擬テスト、学内企業セミナーなどを企画し、学生の皆さんの進路決定のお役に立てればと考えています。皆様のご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

昇任のご挨拶



助教授（薬品分析学教室）
北出 達也

本年1月1日付で薬品分析学教室の助教授に昇任させて頂きました。私は昭和58年3月に本学大学院博士課程を修了した後、同年4月から本学 薬品分析学Ⅱ教室（現 薬品分析学教室）の助手として分析化学、特に機器分析学に対する教育・研究のためのメンバーに加えて頂き現在に至っています。

当初、穂積啓一郎教授の下では、プラズマ重合法を用いた機能性新素材の開発研究に携わっていました。この頃に、先生方をはじめ多くの研究室の先輩方や後輩達に教えて頂いた知識や経験が現在における私の研究の礎になっているような気がします。

平成2年に北村桂介教授が教室主任になられて以降は、人にやさしい臨床分析法の開発に興味を持ち、現在もその研究を続けています。これは、臨床検査を行うにあたり、患者さんに精神的、身体的そして経済的な負担をなるべくかけることなく、多くの人々に気軽に臨床検査を受けて頂けるような新規な臨床分析法を開発し社会に貢献しようという研究です。まずその手始めとして、汗・涙液・唾液などを検体とした非観血的な臨床分析法の開発を手掛けました。そのためには超高感度な分析手法を創生しなければならず、ポリビニルアルコールを固体基質とした室温りん光法の開発を行いました。そして現在では、痛みを伴うこと無く皮下に挿入できる直径が1 μm 以下の超微小針状センサーの開発を行っています。このために、分子インプリントポリマーという、人工抗体や人工レセプターともよばれる、分子認識するプラスチックを感応素子とした電位検出型人工免疫センサーの開発を行っています。このセンサーが完成すれば、薬物や生体成分の血中濃度を非観血的にリアルタイムモニターできる新しい技術になりうると考えています。

講義、実習は基礎演習科目、分析化学B、分析化学C、分析化学実習、特別実習、大学院 薬品分析学特論などを担当し、多くの学生の皆さんと接する機会を楽しみながら一緒に勉強させて頂いています。

私がかつて一生の仕事として教職の道を選んだのは、それまでの研究を続け、多くの人々の役に立つことができる物造りをしたかったという事もありますが、若い頃、漠然とはしていましたが大学教員の理想像のようなものが私の頭の中にあり、自分はこの理想にどれくらい近づく事ができるのか、というチャレンジ的な要素が大きかったと記憶していま

す。これからも、現在の私が抱いている理想の教員に少しでも近づくことができるように、また京都薬科大学そして学生の皆さんのお役に立てるように努力を重ねる所存ですので、今後とも宜しくご指導・ご支援をお願い致します。



助教授（衛生化学教室）
長澤 一樹

本年1月に助教授に昇任させて頂きました。私は、学部時代を薬理学教室、大学院時代を病院薬学教室（そのうち1年間は神戸大学医学部附属病院薬剤部）、助手として10年間病院薬学教室（そのうち数年間は週に1-2回病院薬剤部に実務研修）、その後講師として5年間衛生化学教室（そのうち1年間は米国）、そして現在に至る、という遍歴をしております。このような経験を通じて、“薬学部を卒業し、医療現場のみならずさまざまな分野に進出する薬剤師たるものは、臨床力のみならず研究力も兼ね備えてこそ、医療人として生き残ることができる”というのが私の持論です。

今年度から6年制入学者を迎えた本学において、薬学教育は大きく様変わりする部分もありますが、私たちが受け、そして行ってきた従来の薬学教育を捨てる必要は全くないと考えられます。確かに、これまでの教育では、創薬、すなわち研究者養成に重点がおかれていたため、薬剤師に医療人としての臨床力が十分に備わっておらず、医師、看護師のみならず、国民からの信頼を得るのに時間を要しました。しかしながら、現在、薬剤師が医療人として確固たる地位を獲得したことは紛れもない事実です。それは研究力を身につけていたことに他なりません。そこで、これからの薬学教育に課せられた課題は、これまでと同じ苦労を卒業生にさせないよう、いかに早く医療従事者であることに自信と誇りを持たせるか、であると私は考えております。

このような状況の中、学生諸君にとっては、苦しいこと、辛いことも多くあると思います。しかし、それらに対して受身となるのではなく、楽しみを見出すにはどうすればよいかを常に能動的に考え、アンテナを張り巡らせることによって、得るものが多くなると思います。学生時代はさまざまなことにめぐり合う機会が特に多いときですので、何事も“enjoy”してください。これが、講義にほとんど出なかった劣等（悪？）生からメッセージです。

今後益々、学生諸君が夢を持って、さまざまなことを経験できる教育環境創りを目指して努力していきたいと考えております。本学の皆様方のご指導、よろしくお願いいたします。

「卒業生からのメッセージ」 三足のワラジのス・ス・メ



木村 一恵 (旧姓 小西)

平成9年卒（薬品物理化学教室）
参天製薬株式会社
学術情報グループ医薬情報チーム

本学を卒業後、半年間は保険薬剤師として薬局に勤め、その後は縁あって参天製薬京都営業所の学術担当兼管理薬剤師となりました。平成14年1月より本社（大阪）の医薬情報チームに異動し、医療関係者の皆様（医師、薬剤師など）からの製品に関する問い合わせに対応する業務を行っています。本社への異動とほぼ同時期に結婚し、2年後に息子を出産しました。1年間の産休・育休を経て昨年の2月より職場に復帰しています。女性にとって、結婚・出産は人生の大きな岐路で、私自身も色々悩みましたが、幸い私の場合は次の3つの好条件が揃っていたために出産後の復帰を決めることができました。

- ① 会社に育児支援システムが整っていて先輩ママさんが多く（育休取得率：70%超）、上司（偶然にも京薬の先輩です）や同僚の理解と協力があったこと
 - ② 夫の理解と協力があったこと
 - ③ 実家の両親の助けを借りることができたこと
- これらの条件のどれが欠けても、職場復帰するこ

とはできなかったと思います。

毎日の出勤時に子供を実家に預け両親に保育園への送迎を頼んでいます。最初は小さい子供（当時1歳）を保育園に預けることに抵抗を感じていました。しかし、毎日楽しそうに友達と遊んだり季節ごとの行事や農園作業をしたりして、色々なことを経験しながら成長する子供を見ると、保育園に行かせていてよかったなと思えるようになってきました。平日、子供と一緒に過ごせる時間が少ないというのは母としては大きなデメリットかもしれませんが、仕事を続けることで広い視野を持ち続けられていること、子供を持つ多くの女性社員と情報を共有できることや平日の育児のストレスが少ないことから、休日はゆとりを持って子供と接することができることは、私にとって大きなメリットだと思っています。政府の少子化対策の一環として施行された育児支援法により少しずつですが、仕事と育児の両立の環境も整えられつつあります。当社でも育児休暇期間の延長や育児のための1/4年休の取得などが新たに制度として加えられました。私のように好条件が揃うことは少ないと思いますが、妻、母そして仕事を持つヒトの三足のワラジにチャレンジしてみませんか？

＜最後に＞

三足のワラジにチャレンジするためには、どんな様の協力が不可欠です。家事の協力（手抜きを見逃すことも協力のひとつだと私は思っています）、育児の協力や仕事への理解を是非お願いしたいと思います。

2006年度入学試験結果について

2006年度学部入学試験が終了しました。志願者・合格者の結果は下表のとおりです。

4月から6年制になることに伴い志願者数の減少は予想されていました。本学全体の志願者数は、昨年比77.1%です。

	募集人員	志願者数	合格者数
一般公募制推薦	40名	264名	53名
社会人特別推薦	3名	19名	3名
一般入学試験A方式	40名	947名	342名
一般入学試験B方式	210名	1513名	641名
一般入学試験C方式	5名	64名	38名

（以上のほか、指定校制推薦入試を実施しています。合格者数は3月10日現在）

特集

先輩からのメッセージ ～より良い学生生活を送るために～

6年制第1期生の皆さん、京都薬科大学へようこそ。

これから始まる6年間の学生生活を充実かつ円滑に進めていくには先輩からのアドバイスが欠かせない。そこで今回は皆さんよりも一足先に京都薬科大学で学生生活を送っている8名の先輩から特に新入生諸君にとって関心の高い「クラブ活動」「アルバイト」「ボランティア」「下宿生活」「遠距離通学」「就職」などテーマ別に自らの体験やアドバイスを書いてもらった。同じ薬学を志す先輩からの貴重な助言だ。これを参考に6年後には自信を持って自分の体験を後輩に語る良き6年制の先駆者になってほしい。

なおこの文章は通読後も自動消滅しないので、入学記念に末永く手元に保管を希望する。では諸君に素晴らしい学生生活が展開することを祈る。

大学生活と部活動

2年次生 湖城 梓

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい生活が始まり、希望に胸を膨らませていることと思います。一方で、大学という今までとは異なる世界に多少とも不安も抱えているのではないのでしょうか。

大学は、高校までと比較すると自分だけの時間というものが増えます。この自分だけの時間の過ごし方で、大学生活の充実さが変わってきます。自由時間の過ごし方にはアルバイトや習い事など、様々な選択肢がありますが、私は部活動を選びました。何種類もある部活動のなかでも管弦楽部に入部して、とても充実した日々を送っています。1年間部活動が続けて、良かったと感じる点がいくつもあります。まずは多くの信頼できる仲間に出会えたことです。管弦楽部で出会った仲間は部活動以外の時間でもみんなで遊びに行ったり、様々なことを語り合ったりできる、大切な存在です。また、同学年だけでなく先輩方、さらにはOBやOGの方々や他大学の方々とも知り合いになる機会があるので、世界が広がります。大学生活のアドバイスや部活の思い出話など、様々な話をしていただけたりもします。

また、一生の趣味にできるものに出会えることも魅力のひとつです。私は楽器の演奏という、これからはずっと続けていくことのできるものを得ることができました。

他にも、部活動に参加していると、ともすれば薬学の世界のみに向かいがちな視点を外に向けること

にもつながります。

もちろん部活動をするということは、今まで述べたような良いことばかりではありません。部活をするということは、ある程度の時間の縛りが伴います。自宅通学生なら帰宅時間が遅くなったり、下宿生なら家事をする時間が少なくなったりします。このことは、初めは辛く感じるかもしれません。私も初めの頃は時間の使い方に苦労しました。しかし慣れてくると、上手に時間を使えるようになります。そして、仲間と過ごす時間が大切に思えたり、部活をしている時間が楽しくて仕方なくなったりするものです。

躊躇していても何も始まりません。せっかく始まった新しい生活です。ぜひ、あなたの興味に合った部活動を見つけてみてください。今までにやったことのある分野を継続するのも、大学で新しい世界に飛び込むのも良いでしょう。きっと毎日が新鮮で輝きのあるものになりますよ。



管弦楽部の練習風景

私の下宿生活

2年次生 大嵐 裕子

実家が山口県なので、当然毎日通えるはずもなく私は京都に下宿することを選んだ。今まで長期間離れた場所で暮らす目的で家を出たことがなかったので、私はこれからどんな生活がまちうけているのかとても楽しみだった。ところが、実際に下宿生活が始まるとそんな気分はあまり長くは続かなかった。今まで普通だと思っていた家族の温かみに触れることがなくなったことで、下宿する前に抱いていた期待はだんだん薄れていき、その分同じくらいの不安にかわっていった。そうなると、何に対しても積極的にできなくなっていくようで、自分の中で気持的に閉じこもりがちになることもあった。しかし、山口からはるばる京都に移り住んでいるこの状況が変わるということはないと思われるし、こんな沈んだ気持ちのままでは嫌だったので私はとりあえず部活に入ることにした。部活では、先輩から下宿生活にあたってのさまざまな事を聞くことができた。よく考えてみると、先輩は私がこれからすることを経験してきているので、何でも相談できる身近な存在である。私はそんな頼りになる先輩になるとは限らないが、先輩はいい意味で利用すると思う。その他にも、授業では関わる人が少ない人とも友達になれることもあるので、私は部活やサークルに入ることをお勧めしたい。また、私が下宿生活をしていて一番感じていることは、何をやるにしても自分からやろうとすることが大切だということだ。下宿の一人暮らしというこの特殊な状況で、自分一人の意志でいろんな事に自分の責任をもてる範囲でまずやってみるというのが、よりよい学生生活を送る第一歩だと私は思う。私は今、そのような考えをもとに新しいサークルを設立して活動している。うまくいかないことも多いけど、このサークルも新入生みなさんの心の拠り所のような場所になれたらいいと思っている。最後に、下宿という貴重な体験をさせてもらっている両親に感謝する意味でも、新入生みなさんには責任をもって学生生活を存分に楽しんでほしいと思う。

部活で得られた人とのつながり

3年次生 畑 裕基

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。
京都薬科大学3年次生、剣道部主将の畑裕基です。

皆さん、大学に入ってやりたいことは何ですか？勉強？バイト？遊びたい？恋愛？山のようにいろいろありますよね。そんなただでさえ忙しいその中に、ぜひ部活動を入れていただきたいのです。

部活動は、時間が拘束されるし、面倒くさいし、高校でもう嫌というほどやったし、大学ではもういいや。はたまた、大学生活と両立出来るか不安…と思う人もいるでしょう。特に、薬学部が6年制に移行して初めての皆様は、不安に感じる人が多いと思います。確かに、部活動は時間が拘束されます。しんどい時も多々あります。でも、勉強・バイトでの閉塞感を部活でリフレッシュすることができます。空いている時間は減るけれど、だらだらしてられないだけ時間の有効利用ができます。また、大学の部活は高校の時とは一味違います。高校で部活をしておられた方、高校では指導者の方に言われたことをそのまま練習していませんか？大学では一変、自分たち学生がいろんなことを考えなくてははいけません。練習メニューは当然のこと、部活の行事、試合の設定、部費の管理…大変です。面倒くさいです。でも学生のうちに経験すべき大切なことが部活には詰まっているのです。

今まで、部活動をいろんな点で推してきました。しかしオススメする一番の大きい理由がまだなのです。それは、部活を通して出来る「人のつながり」だと思っています。私は剣道部なので、剣道の稽古を通じて出会えた方には、他の友達、先輩、後輩とは違う特別な思いがあります。同じ方向に向かって、部のみんなで進んでいくというのは言葉では言い表せない良いものです。高校で部活はもうやり飽きたという人も、ぜひこの感覚をまた味わってください。大学生活に不安・悩みを抱えている人は、どんどん部活の先輩に相談してみましょう。きっと解決に一步近づけることでしょ。

長々と部活を推薦してきました。入る？入らない？何に入る？今までの経験を生かすのもよし、新しい生活に新しい部活もよしです。どの部活も初心者歓迎ですよ。いろんな部活を回って自分に合う部活をじっくり探してみましょう。楽しい作業ですよ。それでは皆さん頑張ってください！



剣道部の練習風景

アルバイトという名の人生経験

3年次生 鶴野 雄仁

新入生の皆さん、この度はご入学おめでとうございます。この度は、皆さんがより良い学生生活を送るにあたって何かアドバイスをと言うことで、このような原稿を書かせていただくことになりました。この記事を読んで何か得るものが少しでもあれば幸いです。

大学生はもちろん勉強が第一です。しかし、この大学生の間にしか出来ないことも多々あると思います。是非学生の間に勉強のことだけでなく色々な事を学びたいものです。

さて、早速ですが僕は入学してまもなくバイト探しをしました。皆さんの中にもこれからバイトをやるかと考えている方がいると思います。皆さんはなぜバイトをやるかと思いませんか？やはり遊ぶお金がほしいからではないでしょうか？僕も、もちろん始めは遊ぶお金が欲しかったからバイトを探しました。しかし、個別指導の塾講師というバイトを2年続けてきた今、お金の為だけにバイトをしているわけではなく、自信をもって言うことができます。僕の場合、部活の先輩の紹介で個別指導の塾講師を始めました。今までやってきたことだから簡単簡単。そんな感じで始めての授業を担当させてもらったのですが、そうはいきませんでした。最初の授業は小学生だったのですが、小学生は集中力があまりなくなかなか勉強をしてくれません。さらに、自分では解っていてもいざ人に教えるとなると難しいもので、本当に頭を使います。わかりやすい言葉を選んで易しく接していかななくてはなりません。それに、僕のバイト先の塾はレギュラーと言って毎週同じ生徒を担当することになるので、レギュラーの生徒との人間関係も重要になってきます。ただ生徒に勉強をさせればいいわけではないのです。それに、生徒は素直に勉強してくれる子ばかりではありません。生徒とのコミュニケーションを取りつつ授業を進めなければなりません。始めは全く講師らしいことは言えませんでした。来る日も来る日も生徒と接していくうちにだんだん慣れてきて、教えることが楽しいと思えるようになってきました。僕はもともと口下手な方でしたが、生徒とのコミュニケーションを意識していくうちに自然と言葉が出てくるようになり、生徒と話すのが楽しいと思えるようになりました。今ではバイト無しでは一週間は終わることができないくらい、バイトから楽しみを得るほどです。これは僕にとって本当にプラスになったことだと思います。また、バイト先の塾では講師研修会や親睦会などのイベントが休日に度々開催さ

れるので、主にそういったイベントを通してバイト先でも友達ができました。他の大学の人との交流をもつことで、他の大学の話なども聞けていいですよ。また、実習などでストレスを感じることもありますが、バイトで生徒やバイト仲間の講師としゃべっているとそんなストレスもすぐに解消されてしまいます。時には試験期間中もバイトばかりやってやばかった時もありますが、今まで何とかやってきているので授業や部活との両立はできるはずです。

あくまでこれは僕の場合ですが、時給のことだけでなく自分にプラスになる事を考えてバイト探しをしてもいいのではないのでしょうか？大学生活で授業のことだけ考えて卒業してしまうのも悲しいと思います。今しかない大学生活ですので、大いに楽しみましょう！バイトや部活などで色々な人と関わってください。きっと何か得られるものがあると思います。

いくつかのボランティアを経験して

4年次生 山井 一樹

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。

大学生活はとても長いようで実に短いと感じます。日々の生活に目的意識を持つことは難しいかもしれませんが、周りに流されてしまえば毎日を無駄に過ごし、卒業する時には後悔だけが残ります。薬剤師の資格を取得するためだけにこれからの大学生活を送ることは、あまりにももったいないです。そこで有意義な時間を持つための一つの提案として、私からはボランティアについて話をさせていただきます。

京都薬科大学は、授業が大変でとても忙しいと言われていますが、クラブ、サークルに入り活動することも、アルバイトを頑張ることもできます。勉強と両立させることは十分可能なのです。大切なのは、時間は限られている、と意識することです。意識さえすれば、時間は無限に広がるものだと思います。

私は、大学の休みを利用して、今まで3回ほどインドネシアのバリ島で孤児院建設に携わってきました。言葉も文化も価値観も全く違う中で始めは不安でしたが、子供達のことだけを考え全力で働き、進んで現地の言葉を覚えることでその心配も杞憂に終わりました。

今は、大学の南にある小学校で高機能自閉症の児童の授業補助をしています。自閉症と聞くとすごく大変そうに思われるかもしれませんが、どれだけ小さい児童であってもこちらが誠意を持って努力をさえすれば分かってくれるものなのです。

上記の2つも含めて今までいくつかのボランティアを経験してきましたが、いつも感じるのは、ボランティアをする側が「してやってる」という気持ちではなく、心から相手のことを思って行動すれば、たとえ時間はかかっても必ず分かってくれる、ということです。ボランティアとは相手のために行うことかもしれませんが、自分に還元され、得られるものも計り知れないはずです。そして、利益や損得を考へることのない「ボランティア」で出会った知人、仲間は今後も社会に出てからもあなたのかけがえのない支えになるでしょう。

最後に。文頭にも書きましたが、常に時間を意識し行動すれば、大学生活はすばらしいものになると思います。これからの6年間、充実した日々をお過ごしください。

ボランティアで得たもの

4年次生 福本 真子

三年前の春、縁あって本学に入学し充実した学校生活を送ることはもちろんですが、それ以外にやりたいと思っていたのがボランティアでした。

ボランティアという言葉は偽善者っぽい気がして、これまでは極力、自分がボランティアをやりたいことを他人に知られないようにしてきました。そんな私が自ら行動を起こせたのは、大学生という自由と、初めての一人暮らしと、京都という落ち着いた風土が後押ししてくれたからだと思います。でも、いざボランティアを始めようと思っても、どう始めていいものやら分からなかった一年次生の私の目に飛び込んできたのは、学校の掲示板の張り紙でした。それは児童館での介助ボランティア募集の案内で、そこから私のボランティアは始まりました。

ボランティアには色々な種類の活動がありますが、私は障害をもつ子供達の介助を主にしています。そこには人の為に働くとか、助けてあげるといふ、おこがましい意識は全く存在せず、むしろ子供達との出会いにこちらが癒されたり、他大学の同世代の学生や違う世代の人達とも親しくなり、交友関係や視野が広がった気がします。しかし他大学といっても福祉関係の学生が多く、その人達に比べてボランティア初心者の私は自分の知識のなさや経験のなさに、不安を覚えることも多々ありました。初対面の場合は特にどう接したらいいのかもわからず、帰る時までなついてくれないこともありました。

そんなある日、あるボランティア団体の方から「なぜ福本さんはボランティアをしているの？」と聞かれたことがあり、その時「障害を持った子たち

と一緒に遊んでいるだけなのに、楽しそうな笑顔を見せてくれると、自分にも役に立つことがあるんだなと嬉しくなるから」と自然に答えている私がいました。その日から肩の力がぬけて、障害があるなしを意識せず自然体でいることが私にできる一番大切なことだとわかった気がします。そして私がボランティアを続けていられるのは無邪気な姿を見ると、逆に私もしっかり生きないと！とエールを送られている気がするからなのでしょう。

受験を乗り越えて、これから大学生活を送るみなさんの頭の中にはいっぱいやりたいことがあると思います。その、やる気を大切にせずきっかりになるものを見つけてください。それはきっと自分の身近なところにあるはずです。

今を大切に、悔いのない楽しい大学生活を共に送りたいと思います！

長距離通学

4年次生 伊藤 真子

ご入学おめでとうございます。長距離通学というテーマで書かせていただいている通り、現在、私は名古屋から新幹線で本学まで通学しています。入学したばかりの頃はちょっとした小旅行をしている気分でしたが、今では新幹線が私鉄のような乗り物と同じ感覚で乗っています。通学時間は片道一時間半ですので、大阪府や奈良県から通っている人でも同じくらい時間をかけて通っているように思います。

大学生といえどどんなイメージがありますか？部活・サークルやアルバイトに汗水を流しているイメージがあるのではないのでしょうか。本学では薬学部ということもあり、私自身は講義・学生実習が忙しく、なかなか勉強以外のことに時間が取れないのかと考えていました。実際に忙しくはありますが、部活は勉強を優先に活動しています。私は、折角四年間も通う大学と家をただ行き来するだけでは、もったいないと考えていたので、大学を違った角度から見られ、関わることでできそうな学生自治会に所属し、2005年度学生自治会長も務めさせていただきました。大変なことも多くありましたが、仲間にも恵まれ、多くのことを学び、充実した活動ができました。イベントの打ち上げ、また観光、夜桜や紅葉狩りに出かけたりと遊びの面でも充実していました。大学生活を送ってきて、先輩や後輩、そして友人のつながりはとても大切だと感じたので、部活・サークルで人脈を広げるのも学生生活を有意義に過ごす一つの手だと思います。

また、私は自治会だけでなく、多数のアルバイトもしてきました。一年次生の時は喫茶店、学生実習

が始まり少し忙しくなった二年次生では塾の模試監督など、夏休みや春休みの長期休暇にはデパートなどで短期のアルバイトもしました。接客業など様々な経験ができ、人と接することの難しさや大切さ、そしてなにより楽しさを学び、薬剤師の姿勢にも通じるものがあると感じ、多くのものが得られたと思っています。

一例ではありましたが、勉学とメリハリをつけ、やる気さえあればどんなに忙しくても、自分なりに充実した学生生活を送ることができると思います。学生生活は色々なことに挑戦できる時です。本学で六年間を過ごすことになる新入生の皆さんは、是非、何か一つでも勉学以外に情熱を注いだものを作ることをお勧めします。部活やアルバイト、ボランティア、趣味等何でも良いと思います。それだけで学生生活は充実するはずです。



名古屋から京都までの定期券

楽しんで過ごさなきゃ損っ!!

2006年3月卒業 笈川 智恵

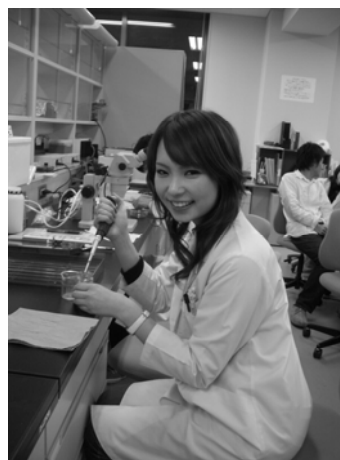
まさに疾風のごとく、四年という月日は、長い様であっという間に過ぎ去ってしまいました。特に、研究室が始まる三年次生後期～四年次生の一年間は、非常に中身が濃いので、とりわけ早く感じました。そこで、この一年に焦点を当てて、より良い学生生活を送る為のアドバイス、とまではいきませんが、下記の三点について心掛けてみてはと思います。

まず、一つ目として、大まかに月単位で何をすべきか計画を立てることです。と言うのも、前述した様にこの一年間は、毎日の研究室に加えて、就職活動や病院(薬局)実習、さらには国家試験等やるべき事が大変多いからです。計画的に過ごさなければ、気が付いた時にはもう卒業間近!!なんて事にもなりかねません。私の計画は三年次生後期試験終了後～四月上旬まで就職活動を行い、病院実習も春休みに

終わらせて、学生最後の夏休みは思いっきり遊ぶ!!でも遊ぶだけではなく国家試験の勉強も夏から始めようと思っていました。希望通りに、春休み中に病院実習を終わらせることができ、三月は、就職活動も重なったのでほとんど休みなしの毎日でしたが、おかげで夏休みは予定通りに過ごすことが出来ました。就職活動は、職種によって活動する時期が様々です。また、病院実習等の兼ね合いもある為、早いうちから計画を立てることが大切です。

二つ目に、休日を有意義に過ごす事です。研究室が始まると、今までは授業だけだった学校生活が、夕方・夜遅く、さらには春休み・夏休みまで研究と、一・二年次生の頃とは比べ物にならない程、自分の時間が少なくなります。ですから、休日などの自由な時間を、どの様に使うかが重要だと思います。私は病態生理学教室に所属していました。土日が両方とも休日だったので、一日は休息日に、もう一日は友達と遊ぶ、自分の趣味に充てる等をして、心も体もリフレッシュしていました。

三つ目は、今日と言う日は一日しかないという事をしっかり頭に入れて、一日一日を精一杯楽しんで過ごす事です。特に、研究室で過ごす貴重な時間を大切にしてください。初めのうちは、毎日帰りは遅いし、慣れない事ばかりで、戸惑いしんどく思う事もあると思います。しかし、気の合う仲間達や、素晴らしい先輩方と一緒に白衣を着て研究が出来るのは、この一年間しかありません。私は、谷口先生を始め、多くの先輩方からのアドバイスを頂く事で、研究だけでなく、様々な事について学ぶ事が出来ました。楽しかった事、苦しかった事、研究室での経験全てが、直ぐに社会へ出る私達の糧となると確信しています。失ってから気付いたのでは遅い時もあります。これを読んで下さった皆さんは、残りの学生生活を、悔いの無い様に、精一杯楽しんで頑張ってください!!!



研究室での実験風景

オーロラの下で

～International Symposium on Translational Researchに参加して～

薬物治療学教室 D1 栗飯原 永太郎

スカンジナビア半島の西側半分を占め、スウェーデン、ロシア、フィンランドと国境を接しているノルウェー。International Symposium on Translational Researchに参加するため、岡部進名誉教授、竹内孝治教授、林周作君（M2）とともにこの地を訪れました。ノルウェーの国土の約30%は北極圏に属しているために「真夜中の太陽」やオーロラといった壮大な自然現象が見られ、さらに西沿岸部はノルウェー海に面したフィヨルドの入り組んだ光景が広がっています。ノルウェーは世界有数の福祉先進国としても知られており、日本の目指すところです。我々の目的地であるトロンハイムは997年に聖オラヴ・トリグヴァソン王によって町の基礎が作られ、中世には首都として栄えた町であると伝えられています。

途中アムステルダムを經由し、12月8日、トロンハイムへと到着しました。飛行機を降りると正午であるにもかかわらず、太陽がもうすでに沈もうとしていました。そう、この時期は太陽が1日に約4時間しか顔を出さないのです。気温は予想に反してマイナス4℃と高く、また無風であったために異常なまでの寒さは感じられず、せっかく着込んだダウンが不要でした。



トロンハイムにて（筆者中央）

ホテルに到着し少し休憩をとった後、我々は街へ足を運びました。凍り付いた歩道に気をつかいながらニデルヴァ川沿いを探索すると、あちらこちらに見られる中世の倉庫やはね橋から昔の面影が色濃く感じられました。我々はノルウェー最大で、町のシンボルでもあるニーダロス大聖堂も訪れました。この辺りは昨年5月に天皇皇后両陛下もご訪問なさったそうです。大聖堂の正面にはイエス・キリストと聖母マリアの像を中心に54の聖者の彫刻が並び、荘厳な光景が目に入ってきました。この大聖堂は聖オラヴ2世王が祀られており、1070年の建造以来何度

も破壊と修復を繰り返されてきました。大聖堂の中へ入ると、聖歌隊がクリスマスに披露する賛美歌の練習をしており、その美しい歌声と大聖堂の壮大さに心が静まる気がしました。外へ出るとすでに辺りは薄暗く、街中はクリスマス前で煌びやかなイルミネーションに包まれていました。小腹が空いたのでファーストフード程度の軽食をとりましたが、なんと約90クローネ（約1500円）と非常に高価でした。その他の物も含めてノルウェーでは物価の高さが目につきました。



ニーダロス大聖堂

その夜、我々は学会のウェルカムパーティーに参加するためにホテルロビーにて迎えを待つことになりましたが、そこでは日頃論文上で名前を知っている著名な海外の先生方と場を共にすることができました。中には一昨年前に竹内教授が主催されたIUPHAR国際学会に参加くださった方もおられました。今回の学会主催者であるDr.Chenらの迎えが到着し、彼の同僚であるDr.Sandvikの奥様が経営する靴屋の2階にてパーティーと参加登録が行われました。アットホームなパーティーであり、緊張しながらも普段話すことのできない先生方と会話や握手をする機会



会场上空に出現したオーロラ

に恵まれ、有意義な時間を過ごすことができました。またパーティーには日本で滅多に口にすることができない鯨の肉が並んでいました。そう、ノルウェーは日本と同じく捕鯨国であることで有名で、その他サーモンやニシンなどの魚介類も有名なのです！

その翌日、朝食を食べにホテルレストランへ行くと新鮮なシーフードがずらりと並んでいました。あまりの美味しさに自らの食欲に歯止めがきかない程でした。腹拵えを終えた我々は「いざ学会会場へ」と外へ出ましたが、9時前にも関わらず辺りは真っ暗で、朝であるという認識を濁す様でした。学会はオラヴ病院の研究棟で開催され、初日には竹内教授と林君のプレゼンテーションが行われました。林君は国際学会における口頭発表は2回目で緊張気味でしたが、激しく白熱した討論となりました。林君の発表成功を祝福するかのように太陽が顔を出し、少し光を浴びようと外に出ると学生達がスケート靴を持ち歩く姿が目に見え込んできました。なんだろうと近寄ると、なんと夏場にはグラウンドとして使っている場所がスケート場になっていたのです！まさに自然界との融合といった光景がそこにはありました。一方、竹内教授は国際学会での発表回数は数えきれず、またchairmanとしても広く活躍されており、今回の発表もさすがの一言でした。私は2日目に研究成果の発表時間を頂きました。私は竹内教授のご配慮により国際学会での発表機会に恵まれており、今回で4度目の口頭発表となりました。初めての頃は圧倒されていた激しい討論場の雰囲気にも、国際学会での経験を重ねていく内に随分と慣れてきました。発表直前に感じていた緊張もプレゼンテーションを始めてからは和らぎ、自分自身では良いペースで発表できるようになってきたと感じています。また、たどたどしくも質疑応答にも参加できました。ただ日常会話も含めて語彙力の乏しさは感じざるをえず、あらためて英会話能力の重要性を痛感しました。日頃から英語を口にする機会はありませんから、できる限り多くの単語を頭に叩き込み、また瞬時に使えるよう訓練する必要があると思



会場前にて（筆者左）

います。こうした日々のトレーニングの積み重ねによりはじめて質問者に納得いく返答を行えると思うので、この点は次なる課題として取り組んでいきたいと思います。

本学会では、興味深い研究発表が数多くありました。中には我々が行っている研究と似通ったものがあり、プレゼンテーション後にその演者からさらに詳しい情報を伺うことができました。こういった点も学会参加における魅力の一つです。ここで得た助言を活かし、私の研究をより内容深いものにしようと思いました。

さて、このように学会を満喫したその日の夜は、Ringve博物館の見物後に晩餐会が開かれました。ワインを片手に夕食を楽しみ、さらに会話を存分に楽しむことができました。私の横に座った研究生はなんと4カ国語を話せるとのことで、研究以外にもさまざまなアドバイスを頂きました。途中、学会参加者の中から各国の代表がそれぞれスピーチを行いました。各先生方は研究以外の話術も巧みで、ユニークな話で皆の心をあっという間に魅了しました。日本代表として岡部名誉教授が挨拶に立たれたのですが、先生はスピーチに加えて、なんと唄を一曲披露されました。先生の歌声に皆、聞き惚れ、歌い終わると拍手喝采がわき起りました。いつも海外に来て感じるのは発想がすごいということや、恥じることなく自らの意見を率直に述べることです。この点は我々日本人も見習うべき点です。

翌日、ノルウェーを後にし、アムステルダムへ再び戻りました。次の飛行機までの時間が丸1日あったので、少し街を見学することにしました。まず目に入ってきたのが、東京駅のモデルという説があるアムステルダム中央駅です。双方赤煉瓦作りで横に長い構造をしており、とても東京駅に似通っていました。また17世紀のオランダを代表する画家・版画家のレンブラントの家を訪問することができ、非常に有意義な1日を過ごすことができました。

今回の国際学会では、とても自身のためになる経験ができたと思います。研究を進めていくにあたって、日本国内はもちろん、世界中の研究者達との討議がいかに大切であるか感じさせられた学会であり、今後より一層の努力と研鑽が必要だと痛感させられました。

最後になりましたが、今回学会発表の機会を与えて下さいました竹内教授、また学会の参加にご配慮頂いた理事長、学長をはじめ、大学関係者の方々に深く感謝いたします。

第3回 京都薬科大学 - 京都府病院薬剤師会連携ワークショップ開催

京都薬科大学-京都府病院薬剤師会連携ワークショップ委員会

2005年12月4日、第3回 京都薬科大学-京都府病院薬剤師会連携ワークショップが愛学館にて開催されました。本ワークショップは薬学教育6年制の円滑な実施に備え、基礎および臨床薬学の知識・技能を生かし、エビデンスに基づいた適正な薬物治療が実践できる指導的薬剤師を育成すること、ならびに医療現場の薬剤師と大学教員とが理解を深め、患者さんに貢献することを目的とした相互交流を推進することにあります。本学からは横山教授をはじめ12名の教員が委員となり、京都府病院薬剤師会・業務委員会との共同により本ワークショップの運営を行っています。

このワークショップの最大の特徴は、講義のみに終始せず、演習・実習による技能習得を主体としていることです。第1回は2004年8月に「On Demand科学論文：必要な情報を適切な論文から」、第2回は

2005年3月に「On Demand TDM：状況に応じた薬物動態学理論の応用」をそれぞれテーマとして開催してきました。

今回は、「消毒薬の選択基準-消毒法 これで万全！！」をテーマとし、第1部では本学・後藤教授による「院内感染菌の基礎知識」についての講演、続いて第2・3部では「手洗い実習」および「院内感染対策として、滅菌・消毒方法について、参加者のグループ討議による実践的な消毒剤使用マニュアルの作成」を行いました。京都府下の病院等から約90名の参加者があり、活発な討論が交わされました。

次の開催日・テーマは未定ですが、本ワークショップは1年に1もしくは2回のペースで開催していく予定であり、今後ともどうぞご協力をお願い申し上げます。



講演中の後藤教授



参加者によるグループ討議

受賞

平成17年度 日本薬学会
薬学研究ビジョン部会賞 受賞
薬品物理化学教室 助教授 廣田 俊

研究題目：蛋白質構造変化の新規測定法と制御法の開発

薬学研究ビジョン部会賞は、薬学研究に関する明確なビジョンをもち、創薬を目指して境界領域において独創的な研究業績をあげつつあり、薬学の将来を担うことが期待される研究者に与えられる賞です。本学薬品物理化学教室の廣田俊助教授による上記の研究が評価され、平成17年度薬学研究ビジョン部会賞を受賞しました。



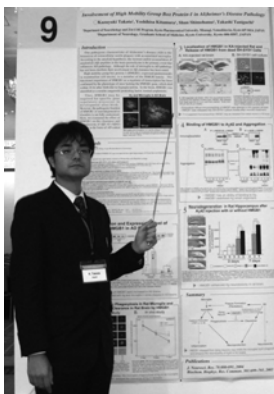
研究成果を発表する廣田助教授

ク ラ ブ だ よ り

第3回武田科学振興財団薬科学シンポジウム 脳神経研究最前線—分子病理と薬物作用— シンポジウム研究奨励受賞

演題名：Involvement of High Mobility Group Box
Protein-1 in Alzheimer's Disease Pathology
演 者：○高田 和幸、北村 佳久、下濱 俊、
谷口 隆之

2005年12月5日～7日に第3回武田科学振興財団薬科学シンポジウム・脳神経研究最前線—分子病理と薬物作用—が東京（ラディソン都ホテル）で開催されました。そのポスターセッションにおいて、本学病態生理学教室の高田研究員が発表した研究内容がシンポジウム研究奨励を受賞しました。核内タンパク質であるHigh Mobility Group Box Protein-1とアルツハイマー病との関連性を動物モデルや培養細胞を用いた実験により示した内容が評価されました。

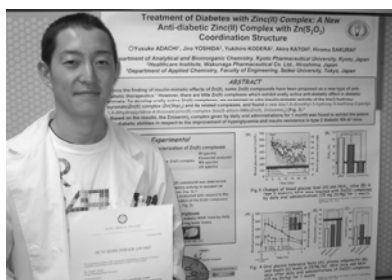


International Interdisciplinary Conference on Vitamins, Coenzymes, and Biofactors 2005 (IICVCB 2005) Poster Award

演題名：Treatment of diabetes with zinc complexes:
a new anti-diabetic zinc(II) complex with Zn
(S₂O₂) coordination mode
演 者：○Yusuke Adachi, J. Yoshida, Y. Kodena,
A. Kato, H. Sakurai

2005年11月6日～11日に開催された上記の国際会議（淡路島・夢舞台）のポスター発表部門で、代謝分析学教室の大学院博士後期課程2年次生 安達祐介君に、上記のタイトルで発表した研究にポスター賞が与えられました。

多くの亜鉛錯体の抗糖尿病作用に関する構造—活性相関性を研究した結果、乾燥ニンニクから得られるアリキシンおよびその誘導体の亜鉛錯体が極めて高いインスリン様作用を示し、糖尿病の治療と改善に有効であることを示した新しい成果が高く評価されました。



剣道部

活動実績：

- ①全国薬学生剣道大会
 - …男子団体戦優勝
 - 男子個人戦3位（木村嘉彦）
- ②関西薬学生連盟剣道大会
 - …男子個人戦準優勝（木村嘉彦）
 - 男子個人戦3位（木村圭輔）

今後の予定：

春期医歯薬剣道大会に向け、稽古に励んでいます。

バスケットボール部

- 春（3月） 関西薬科大学バスケットボール大会
 - 男子 4位 女子 4位
- （6月） 石神杯
 - 女子 1回戦敗退
- 夏（8月） 全国薬学生バスケットボール大会
 - 男子 予選敗退
 - 女子 決勝リーグ1回戦敗退
- 秋（10月） フレンズ杯
 - 女子 1回戦敗退
- 冬（11月） 医歯薬バスケットボール大会
 - 男子 1回戦敗退
 - 女子 1回戦敗退

男子は年3回の公式戦、女子は年3回の公式戦+2回の準公式戦に参加しています。

ヨット部

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。
私たちヨット部は、毎週土曜日、琵琶湖で元気に活動しています。

ヨット部は、3月に同志社ウィーク（レース）に出場しました。今後は、その反省をもとに、技術向上はもちろん、安全に気をつけながら、ヨットをみんなで楽しむこと、これをなによりも大切にして活動を続けていきたいです。

- <今後の予定>
- 4月 試乗会
 - 5月 新入生歓迎会
メイレガッタ（レース）
 - 6月 春季医歯薬レース

その他ヨット部についての詳細はこちらのホームページをご覧ください。

<http://parisian.hp.infoseek.co.jp/>

サイクリング部

私達サイクリング部は、普段は月～金曜日の昼休みに30分ほど学校周辺を走り、月2回ほど土日を利用して、各地へRUNを行っています。

さらに、夏休みにはサイクリング部最大のイベント、北海道合宿があり、北海道各地をめぐる。自然が美しく、美味しい食べ物にあふれています。また、春休みには短期間ながら、日本各地に足をのびします。

今後の予定（2006年度）☆

5/13 新歓RUN（京都・宇治）

5/20～21 一泊RUN

6/3 山岳RUN

6/16～17 長距離RUN（琵琶湖）

*都合により、変更になる場合があります。

軽音楽部

軽音楽部 2006年度活動予定

4月4日 入学式&新歓LIVE→体育館にてLIVEを行います！

4月下旬 新歓コンパ→蓬萊セミナーハウスにて泊り込みです！

5月上旬 医薬連LIVE→関西の医・薬学部の軽音で合同LIVEです！

5月中旬 薬連LIVE→京薬、大薬、神薬の軽音で合同LIVEです！

6月上旬 部内発表→一年次生に、先輩の前で演奏してもらいます！

6月中旬 サマーコンサート→一年次生の初LIVEです！

8月中旬 合宿→5～6泊で練習及び遊びを！

11月上旬 学祭LIVE→京薬祭にてLIVEを行います！

11月下旬 薬連LIVE→冬の合同LIVEです！

12月上旬 定期演奏会→四年次生の最後となるLIVEです！

管弦楽部

私たち管弦楽部は部員一同12月に行われる定期演奏会に向けて日々練習に励んでいます。

<昨年の活動実績>

4/4 入学式での祝奏

4/16 創立120周年記念式典での祝奏

8/10～8/16 夏合宿（長野県北志賀にて）

11/4 京薬祭にて演奏

12/3 第33回定期演奏会

<今年の活動実績>

3/13～3/15 春合宿（滋賀県にて）

3/18 卒業式での祝奏

<今後の予定>

12/2 第34回定期演奏会（京都府長岡京記念文化会館大ホールにて）

曲目：ドボルザーク

交響曲第8番ト長調

ハチャトゥリアン

組曲「仮面舞踏会」より

ロッシーニ

歌劇「どろぼうかささぎ」序曲

この他にも部内アンサンブル大会などを開催し、楽しく充実したクラブ生活を送っています。管弦楽部の詳細はこちらのホームページへ

<http://orchestra.musicinfo.co.jp/~kpuorche/index.html>

ユーベルコール部

私たちユーベルコール部は音楽の好きな仲間が集まって毎日楽しく歌っています。皆様のおかげで昨年の11月、42回目の定期演奏会を迎えることができました。

学内の行事においても毎年、入学式、卒業式に参加し、昨年は本学120周年記念式典にも参加しました。今年から6年制が始まることもあり、新たな期待と不安に胸を躍らせています。これからは様々な場で素晴らしい曲をお届けできるよう励んでいきます。

また今後の活動予定は、

4月 新歓コンサート

5月 新入生歓迎会

6月 合唱祭

8月 夏合宿

9月 他大学との交流を目的としたソフトボール大会

11月 模擬店出店

11月末 定期演奏会

12月 クリスマス会

となっております。

今年もイベント盛りだくさんな楽しいクラブにしたいと考えております。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。みなさんに図書館の利用について、ここで簡単に説明いたします。

- 開館時間 平日 9:00～18:00
 土曜日 10:00～17:00
 夏期 9:00～17:00
- 休館日 日曜日、国民の休日、本学創立記念日
 夏、冬期休暇中の一定期間、行事などによる臨時休館日
 開館時間の変更、臨時休館日などは、その都度お知らせします。
- 貸出方法 学生証と資料をカウンターに提示して下さい。貸出冊数は5冊以内とし、
 貸出期間については、一般図書は2週間以内、学術雑誌、製本雑誌等は1日です。
- 貸出予約 資料が貸出中の場合、予約ができます。予約資料が返却されると、
 掲示板にてお知らせします。
- 返却方法 借りた資料は、カウンターへ返却して下さい。返却の際、学生証は不要です。
 延滞した場合は、延滞した日数×2の期間貸出を停止します。
- 図書館利用検索(OPAC)
<http://libopac.kyoto-phu.ac.jp>
 学内のパソコンからWebで資料検索を行うことができます。

京都薬科大学 図書館

[詳細検索](#) [English](#) [Help](#) [戻る](#)

全資料 ▼ 全て ▼ 未所蔵を含む ▼ 表示件数 20 ▼ 所蔵を表示する ▼

キーワード ▼

所在 全て ▼

[ギリシャ・キリル文字](#)

【LINUS/NC OPAC】

タイトル、著者名、出版者など自分が検索したい本についてわかっている情報を入力して下さい。

- ☐ 53. [薬物による予期せぬ作用 : 生化学・薬理学テキスト / R.R.Raje, P.D.Wong\[著\]; 森昭胤監訳; 野田泰子, 熊谷学訳. -- じほう, 2003](#)

所在	請求記号	巻冊次	図書番号	利用状況	予約
第1閲覧室	491.5 R.8		108878F	保管中	

- ☐ 54. [薬理学マニュアル / 高柳一成, 中山貢一編集. -- 第4版. -- 南山堂, 2002](#)

所在	請求記号	巻冊次	図書番号	利用状況	予約
第1閲覧室	491.5 T.5 c		108605H	貸出中 (20060223)	

- ☐ 55. [薬理学 / 粕谷豊, 加藤仁, 重信弘毅編集. -- 改訂第4版. -- 南江堂, 2002 -- \(Integrated essentials\)](#)

所在	請求記号	巻冊次	図書番号	利用状況	予約
第1閲覧室	491.5 R.6 b		108665B	保管中	

- ☐ 56. [最新薬理学 : 医療薬学 / 重信弘毅, 長友孝文編集. -- 第6版. -- 廣川書店, 2002](#)

所在	請求記号	巻冊次	図書番号	利用状況	予約
書庫5層	491.5 S.6 b		108620B	保管中	

該当する本の名前、貸出状況、所在などが表示されます。

詳しい利用方法は、利用案内、学生便覧をご覧ください。その他利用についてわからないことがあれば、カウンターでお尋ね下さい。

学生用図書の購入について

平成17年度の私立大学経常費補助金特別補助のうち、図書館から申請しておりました学生図書の購入費について承認されました。そこで、①専門図書の複数整備、②医療薬学、臨床薬学系科目の図書の充実、③医学、薬学関係の視聴覚資料の充実を図る為、次のとおりに購入しましたので、ご利用下さい。

プライマリ・ケア薬剤師：プライマリ・ケアにおける薬剤師の役割と実践法	日本プライマリ・ケア学会編/エルゼビア・ジャパン
薬局薬剤師の患者対応：服薬ケアコミュニケーションのコツ	岡村祐聡著/エルゼビア・ジャパン
中毒治療に役立つ迅速検査法	奈女良昭 [ほか] 共著/じほう
薬学的臨床研究のすすめ：医療に貢献できる薬剤師	大井一弥著/じほう
薬剤師とくすり倫理：基本倫理と時事倫理 改訂 6 版	奥田潤, 川村和美著/じほう
法律からわかる薬剤師の仕事	白神誠著/じほう
病態と治療 第 3 版	鳥海純, 田中照二, 永山和男編集/杏林書院
医療禁忌マニュアル 第 3 版	富野康日己総編集/医歯薬出版
薬学生病院実務実習ノート	神奈川県病院薬剤師会編/医療文化社
有機化学実験の事故・危険：事例に学ぶ身の守り方	鈴木仁美著/丸善
イラストレイテッド微生物学	William A. Strohl, Harriet Rouse, Bruce D. Fisher[著]/丸善
図解生化学：キャンベル スミス	Peter N.Campbell, Anthony D.Smith 著/西村書店
コメディカルのための薬理学	岩月和彦, 渡辺泰秀編集/朝倉書店
分子細胞生物学 第 5 版	H. Lodish [ほか] 著, 石浦章一 [ほか] 訳/東京化学同人
スタンダード薬学シリーズ：1-4, 6, 8-9	日本薬学会編/東京化学同人
新しい解剖生理学 改訂第 11 版	山本敏行, 鈴木泰三, 田崎京二共著/南江堂
医療薬学 第 4 版	乾賢一, 奥村勝彦編/廣川書店
目で見える薬理学入門 第 2 版 Vol.1-5	医学映像教育センター/医学映像教育センター
目で見える病気 第 2 版 Vol.13-15	医学映像教育センター/医学映像教育センター
コメディカルのための疾患の知識 Vol.15,19-20	医学映像教育センター/医学映像教育センター

他 146 冊

図書館開館日程

4 月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

5 月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

臨時に閉館することがありますので、図書館掲示板を確認して下さい。
太字は休館日です。(4/28・5/31・6/30 は、館内整理日)

お知らせ

他大学の科目・講座を 受けてみませんか！！

本学は「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度に参加しており、京都地域を中心とした大学・短期大学が提供する科目を履修し、単位を修得すれば本学の単位として認定することが出来ます（2005年度は47大学から約450科目が提供されました）。

つまり、京都薬科大学に在籍しながら他大学の授業を受講することができるわけです。修得した単位は、1年間2科目4単位を限度として、1年次生については本学の卒業要件である「人と文化」の選択科目の単位として加算され、2年次生以上については「人文社会科目」の選択科目の単位として加算されます。また、4単位を超えて履修した科目については、自由科目として認定します。（本学での取扱いについての詳細は、学生便覧及びシラバスを参照して下さい）

単位互換制度の特徴として、

- ①講義科目はそれぞれの大学の個性が出て、バラエティに富んでいる。
- ②講義形態は各大学の学生が受講しやすいように、集中講義や土曜日・夏季休暇期間での開講など、各大学から持ち出された特色ある講義（持ち出し講義）を中心に工夫されている。
- ③持ち出し講義の開講場所は、大学交流センターの「キャンパスプラザ京都」（京都駅前）を中心に開講される。
- ④京都地区の学生がこの制度を利用するため、他大学生との交流の機会が広がる。
- ⑤単位互換履修生として身分証明書が発行され、科目開設大学の図書館等を利用することができる。
- ⑥全ての科目を無料で受講できる。

などという点も、この制度の大きな特徴と言えるでしょう。

受講の申し込みは、前期・後期科目とも4月10日（月）までとなります。詳しい授業概要等についてはガイダンスで配布する詳細版「単位互換履修生募集ガイダンス」を見て、教務課に申し込んで下さい。また、大学コンソーシアム京都では単位互換科目のシラバスを公開しています。

<PC><http://www.consortium.or.jp/student/tan-i/>
<携帯><http://www1.consortium.or.jp/mobile/>
科目開講時には休講・補講・教室連絡等の連絡事項も閲覧することができます。

追試験制度一部改正のお知らせ

薬学部6年制の実施に伴い、学則・履修規程等の諸規程が6年制学生用に一部改正されました。その中で、「履修規程」に定める「追試験」に関する規定において、以下のことは、4年制の学生にも適用することになりましたのでお知らせいたします。

①追試験申請事由に「他大学への転入学試験・編入学試験による欠席」が追加されました。

②追試験成績の最高点が「79点（良）」から「80点（優）」となりました。

以上の2点が追加・変更となりますので注意してください。不明な点については教務課へお問い合わせください。

学内企業セミナーの開催

2006年1月19日（木）・20日（金）に、本学講堂兼体育館におきまして、各社の人事担当者を本学にお呼びしての「学内企業セミナー」を開催いたしました。

これは本学進路支援活動の一環としての初めての試みでしたが、3年次生を中心に2日間で延べ500名ほどの学生が集まり、無事盛会裏に終えることができました。

セミナーの形式としては、各社ごとのブースを設置し、学生が各自興味のあるブースへ足を運ぶというもので、参加企業数は製薬企業や薬局をはじめとして2日間合わせて約100社にご参加いただきました。両日は第一級の寒波に襲われ、会場が大変冷え込んだにもかかわらず、多くの学生が積極的に参加し、人事担当者の説明に熱心に耳を傾けていました。また3年次生に限らず、2年次生や大学院進学を



セミナー会場の様子

控えた4年次生の参加もあり、進路に対する学生の関心の高さと熱意が感じられました。

開催後、学生からは「一度に多くの企業に触れられ比較ができた」「色々な業種・職種を知ることができ視野が広がった」「進路を考える動機付けになった」などの意見が多く寄せられました。また参加企業からは、「学生のマナーが良い」「熱意がある」「積極的」「大学側の行き届いた準備に感心した」など多くのお褒めの言葉をいただきました。その一方で、「寒さ対策」について企業側・学生側からも不満の声が多く聞かれたため、今後の開催に向けて改善策を検討していきたいと思います。

総じて参加者から「これからも開催して欲しい」という意見が多く聞かれたため、今回のセミナーを振り返り、実施方法や開催時期などについて学内で検討を進め、本企画を今後ますます拡充させていきたいと考えております。



企業ブースの様子

奨学金のご案内

在学中に利用することができる奨学金は、①日本学生支援機構奨学金、②京都薬科大学奨学金（大学独自の奨学金）、③地方自治体の奨学金、④企業・団体の奨学金に大別できます。

それぞれについて、以下に簡単に説明します。

①日本学生支援機構奨学金

「第一種奨学金」（無利子）と「第二種奨学金」（有利子）の二種類の奨学金があります。

4月初旬に、説明会を実施しますので、希望者は必ず出席して下さい（詳細は奨学金関係掲示板に掲示）。

奨学生に採用されると、卒業するまで奨学金が貸与されます（ただし留年及び休学中は停止）。なお、1年次生で奨学生に採用されなくても、2年次生以上の各学年で再び申請することができます。

【基本月額】

○第一種奨学金（無利子）

- ・学 部 54,000円（自宅通学者）
64,000円（自宅外通学者）
- ・修士、博士前期 88,000円
- ・博士後期 122,000円

○第二種奨学金（有利子）

次の4種類から希望月額を選択できます。

- ・学 部 3万円、5万円、8万円、10万円
- ・大学院 5万円、8万円、10万円、13万円

○入学時特別増額貸与奨学金（有利子）

大学、大学院の第1学年において日本学生支援機構が定めた年月を始期として奨学金（第一種・第二種）の貸与を受ける者が対象。

- ・一律 30万円

○緊急・応急採用奨学金

出願前の1年以内に家計を支えている者が、失職・破産・会社の倒産・病気・死亡等により家計が急変したため緊急に奨学金の必要が生じた場合に随時受け付けています。

②京都薬科大学奨学金（無利子貸与）

- ・学 部 年額800,000円以内
- ・大学院 年額700,000円以内

学部生・大学院生併せて20名程度を募集します。

9月の下旬に、説明会を開催しますので、希望者は必ず出席して下さい（詳細は奨学金関係掲示板に掲示）。

決定するのは11月初旬の予定で、同月下旬には、奨学金を一括貸与します。貸与は、原則、在学中に1回限りです。

③④地方自治体、企業・団体の奨学金

これらの奨学金のうち、学生課を通じて募集するものについては、募集の都度掲示板に掲示します。ただし、直接それら団体が募集するものについては、各自地元の教育委員会等に問い合わせして下さい。

以上簡単に説明しましたが、奨学金に関する質問などがありましたら、早めに学生課へお問い合わせ下さい。

2005年度学位記（博士・修士）及び 卒業証書・学位記（学士）授与式

2005年度学位記（博士・修士）及び卒業証書・学位記（学士）授与式を、3月18日（土）午前10時から中央講堂兼体育館で執り行いました。

大学院博士後期課程5名、博士前期課程64名、修士課程16名に学位記（博士及び修士）、学部薬学科125名、製薬化学科115名、生物薬学科117名に卒業証書・学位記（学士）、また学長賞として成績優秀者に賞状と記念品が、西野学長から授与されました。

今年も多くの来賓の方々やご父母の列席を賜り、滝野理事長、西野学長はじめ教職員の暖かい祝福に送られ、皆元気に懐かしい学窓を巣立っていきました。

引き続き会場をかえて、11時30分から愛学館第1会議室において、2005年度課程博士5名及び課程によらない博士（後期）5名に、西野学長から学位記が授与されました。

式終了後、午後1時より、本学中央講堂兼体育館で、「卒業記念祝賀会」が開催され、卒業生、ご父母、また、本学卒後30周年を迎える昭和51年卒業生を交え、楽しいひと時を過ごされました。

学長賞の授与について

2005年度の卒業証書・学位記授与式において、学長賞の表彰が執り行われ、4年間を通じて成績が特に優秀であった下記学生に対し、西野学長から表彰状並びに副賞が授与されました。

記

仲田 紘子 （製薬化学科）

吉岡 美樹 （生物薬学科）

壺井 紀子 （製薬化学科）

人 事

昇任

2006.1.1付

薬品分析学教室
衛生化学教室

助教授 北出 達也
助教授 長澤 一樹

2006.4.1付

臨床薬学教育研究センター 教 授 金澤 治男
臨床薬学教育研究センター 助教授 橋詰 勉

採用

2006.1.1付

施設課

主 査 宮本 孝

2006.4.1付

臨床薬学教育研究センター
薬理学教室
病態生理学教室
病院薬学教室
薬剤学教室
臨床薬学教育研究センター

教 授 高山 明
助 手 藤井 正徳
助 手 高田 和幸
助 手 辻本 雅之
助 手 勝見 英正
助 手 安田 江里

出向

2006.4.1付

施設課

主 査 佐々木善文

配置換

2006.4.1付

臨床薬学教育研究センター

助教授 大西 憲明

京 薬 会 だ よ り

*120年史に反響続々

「京薬会誌でみる120年の軌跡」を発刊し、卒業生、教職員はもとより、最近非常に重視されるようになった“自校史”をよく知って頂く為に、在学生のご家庭にもお贈りしました。従って学生諸君もすでに目にされたことでしょう。

若かった山科時代の過去達と、思わぬ邂逅をした卒業生からは、多くの礼状や賛辞が寄せられ、またある在学生の父親からは、今後の要望やsuggestionの手紙を頂き、それら反響の一つひとつをうれしく心に受けとめている所です。

*卒後教育に新しい試み

今年も5月21日を皮切りに、4回計12コマの講座がスタートします。今年の特長をみますと、

1. 受講者の定員を従来の約70%増の500名としました。これはキャパシティの関係で毎年多くの方をお断りしていたのを、今年は2教室使用して対応します。
2. 生活習慣病とガンに焦点を当てた講座を6コマ開講します。

今後は専門薬剤師の制度も見据えたテーマ選定が大切なファクターになってくるでしょう。